



平成28年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年1月28日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社ドリコム

コード番号 3793 URL <http://www.drecom.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 内藤 裕紀

問合せ先責任者 (役職名) 取締役 経本部長

(氏名) 後藤 英紀

TEL 03-6682-5700

四半期報告書提出予定日 平成28年2月10日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有

(百万円未満切捨て)

1. 平成28年3月期第3四半期の連結業績(平成27年4月1日～平成27年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第3四半期	4,888	△13.2	△319	—	△322	—	△689	—
27年3月期第3四半期	5,632	—	324	—	307	—	127	—

(注) 包括利益 28年3月期第3四半期 △744百万円 (—%) 27年3月期第3四半期 116百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第3四半期	△50.50	—
27年3月期第3四半期	9.41	9.37

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第3四半期	3,371	1,505	36.7	90.53
27年3月期	4,679	2,213	40.7	139.55

(参考) 自己資本 28年3月期第3四半期 1,237百万円 27年3月期 1,904百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直前に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成28年3月期の連結業績予想(平成27年4月1日～平成28年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,500	△10.9	△300	—	△300	—	△650	—	△47.59

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	28年3月期3Q	13,901,000 株	27年3月期	13,883,000 株
② 期末自己株式数	28年3月期3Q	233,200 株	27年3月期	233,200 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	28年3月期3Q	13,657,542 株	27年3月期3Q	13,582,725 株

みずほ信託銀行株式会社(以下「ESOP信託口」という。)が所有する当社株式233,200株(議決権の数2,332個)につきましては、上記期末自己株式数に含めております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく財務諸表の監査手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

当社は、平成28年1月28日に機関投資家・アナリスト向け説明会を開催する予定です。この説明会で配布する四半期決算説明会資料については開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	3
3. 継続企業の前提に関する重要事象等	3
4. 四半期連結財務諸表	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
第3四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	7
第3四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社が属するインターネットビジネス業界は、引き続き著しいスピードで変化を遂げております。平成27年版情報通信白書にあるように、平成26年末のインターネットの人口普及率は8割に及んでおります。そのうちスマートフォンを使用してインターネットを利用する人の割合が全体の47.1%を占め、スマートフォンはパソコンと並ぶインターネットデバイスとなっております。その急速な普及スピードと機材の性能向上とが相俟って、ソーシャルメディアを中心としたスマートフォン向け新サービスが次々と創出され、市場の拡大と、それにもなう競争の激化が続いています。

こうした環境の下、当社グループは、スマートフォン向けサービスを軸に、既存サービスの拡充および新規サービスの開発に注力しております。主力事業のソーシャルゲーム事業では、他社配信アニメ版権ゲームや、自社オリジナルゲームなどの既存ゲームの運用に注力するとともに、第2四半期から取り組んでいる他社版権ゲームへの傾注を一層進め、新規ゲームの開発に取り組んでおります。ソーシャルラーニング事業では、「えいぼんたん！」の運用に注力するとともに、「えいぼんたん！」のノウハウを活かした新サービス「きこえ〜ご」の市場への浸透に向けた施策を展開し、事業拡大と収益性の向上に取り組ましました。広告メディア事業では、「poncan」を刷新した動画リワード広告「DreeVee」が順調に立ち上がり、新規顧客の開拓に向けた営業力強化するなど、スマートフォン向けサービスの需要拡大への対応力の向上に努めました。

業績面では、他社配信アニメ版権ゲームが引き続き安定的に推移しました。オリジナルゲームでは、「フルボッコヒーローズ」が前四半期に引き続き他社コンテンツをゲーム内のキャラクターやモチーフとして用いるコラボレーション・キャンペーンを中心としたプロモーション施策を実施したほか、「ちょこっとファーム」や「陰陽師」が引き続き安定的に売上寄与しました。また、広告メディア事業では、前四半期にリニューアルされた動画リワード広告「DreeVee」が順調な立ち上がりを見せ、事業拡張が進展しました。

しかしながら、「崖っぷちバスターズ」については、規模を縮小した運営に移行し運用に伴う赤字幅は縮小したものの、今後も収益性の改善が難しいとの判断から、第3四半期における減損処理を決定しました。また、第2四半期から進めている他社版権ゲームを軸とする戦略への転換にもなうアプリポートフォリオの見直しの結果、開発を進めていたオリジナルゲーム2本の将来の収益性を保守的に再評価し、併せて第3四半期で減損処理することとしました。その結果、合計359,176千円の減損損失を特別損失として計上することとなりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における売上高は4,888,881千円（前年同期比13.2%減）となりました。利益面につきましては、営業損失319,155千円（前年同期は営業利益324,820千円）、経常損失322,003千円（前年同期は経常利益307,684千円）、親会社株主に帰属する四半期純損失689,692千円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益127,873千円）となりました。

①コンテンツサービス

主力のソーシャルゲーム事業では、他社配信アニメ版権ゲームが引き続きユーザーの支持を獲得し、業績へ安定的に寄与しました。オリジナルゲームでは、「フルボッコヒーローズ」が前四半期に引き続き、他社コンテンツをゲーム内のキャラクターやモチーフとして用いるコラボレーション・キャンペーンを中心としたプロモーションを展開したほか、中核ユーザーに焦点をあてた運用・サポートに注力した「ちょこっとファーム」と「陰陽師」が、売上水準を維持しました。「崖っぷちバスターズ」は、規模を縮小しての運用に移行し、運用にもなう赤字が減少しました。なお、前述の他社配信のアニメ版権ゲーム2本の売上は、配信会社から一定比率の売上分配を得るかたちとなっているため、売上への影響は相対的に小さいものの、支払手数料が無く、利益に与える影響が大きくなります。

ソーシャルラーニング事業では、既存サービスの英語学習アプリ「えいぼんたん」の運用の他、第2四半期にリリースした新たな英語学習アプリ「きこえ〜ご」では、市場での認知度の向上に注力するとともに、学習効果の高さを活かしたサービスの提供など、アプリの成長に向けた取り組みを進め、事業拡張および採算性向上に傾注しました。

以上のことからセグメントでの売上高は4,358,715千円（前年同期比11.9%減）、セグメント利益は98,557千円（前年同期比84.4%減）となりました。

②広告メディアサービス

広告メディアサービスのうち、広告領域ではリワード広告HeatAppRewardの他、第2四半期に旧来の動画リワード広告「poncan」を刷新した、「DreeVee」を主力サービスとして事業展開いたしました。動画掲載方法の多様化により、より多くの業種へサービスの提供が可能といった「DreeVee」の特徴を活かし、新たな業種の顧客開拓に注力しました。メディア領域では、無料ミュージックアプリ「DropMusic」の運用のほか、新たなサービス開発にも取り組み、複数のサービスで、サービスクオリティの向上、サービス設計の改善などリリースに向けた試行が進みました。

しかしながら、両事業ともに引き続き事業開発段階にあることから、セグメント売上高は678,590千円（前年同期比2.8%減）、セグメント損失は384,606千円（前年同期はセグメント損失296,737千円）となりました。なお、当セグメント損失には上記の試作段階のサービスに係る営業損失71,338千円を含めております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産は2,542,474千円となり、前連結会計年度末に比べ943,803千円減少いたしました。これは主に現金及び預金が1,000,086千円減少したことによるものであります。固定資産は828,967千円となり、前連結会計年度末に比べ364,614千円減少いたしました。これは主にソフトウェア仮勘定が301,680千円、ソフトウェアが87,066千円減少したことによるものであります。

この結果、総資産は3,371,441千円となりました。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債は1,534,235千円となり、前連結会計年度末に比べ332,143千円減少いたしました。これは主に未払金が107,484千円増加したものの、1年内償還予定の社債が125,000千円、1年内返済予定の長期借入金が65,436千円、未払法人税等が42,923千円、その他に含まれている未払消費税等が167,917千円減少したことによるものであります。固定負債は332,168千円となり、前連結会計年度末に比べ267,498千円減少いたしました。これは主に社債が150,000千円、長期借入金が117,894千円減少したことによるものであります。

この結果、負債合計は、1,866,403千円となりました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は1,505,037千円となり、前連結会計年度末に比べ708,775千円減少いたしました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純損失689,692千円によるものであります。

この結果、自己資本比率は36.7%（前連結会計年度末は40.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後につきましては、引き続きスマートフォンの普及が拡大し、スマートフォン向けコンテンツ市場における競争の激化が予想されます。そうした環境下、当社グループは市場の急速な変化に対応し、多様化するユーザーニーズを捉えたアプリおよびサービスの開発に努めるとともに、既存サービスの運用、新規事業開発の両面において、事業部間での連携を促進し、各事業部の有する強みを融合させることでシナジーを高め、事業の拡大に引き続き注力してまいります。以上のことから通期の業績見通しは、売上高6,500百万円、営業損失300百万円、経常損失300百万円、親会社株主に帰属する当期純損失650百万円を見込んでおります。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

当第3四半期連結会計期間より、新たに設立したDrecom (Thailand) Co., Ltd. を連結の範囲に含めておりません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等

該当事項はありません。

4. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,275,812	1,275,725
売掛金	1,059,370	1,067,917
繰延税金資産	60,638	19,757
その他	90,457	179,072
流動資産合計	3,486,278	2,542,474
固定資産		
有形固定資産		
建物	168,802	168,802
減価償却累計額	△72,824	△86,470
建物(純額)	95,978	82,331
工具、器具及び備品	54,597	58,313
減価償却累計額	△48,404	△50,869
工具、器具及び備品(純額)	6,192	7,443
有形固定資産合計	102,170	89,775
無形固定資産		
ソフトウェア	272,276	185,210
ソフトウェア仮勘定	360,195	58,515
その他	519	377
無形固定資産合計	632,991	244,102
投資その他の資産		
投資有価証券	60,267	68,267
繰延税金資産	218,755	226,982
その他	179,396	199,839
投資その他の資産合計	458,418	495,088
固定資産合計	1,193,581	828,967
資産合計	4,679,859	3,371,441

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成27年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	259,450	224,137
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	516,664	451,228
1年内償還予定の社債	275,000	150,000
未払金	410,495	517,980
未払法人税等	60,338	17,415
賞与引当金	22,584	5,645
その他	221,846	67,828
流動負債合計	1,866,379	1,534,235
固定負債		
社債	150,000	—
長期借入金	349,804	231,910
資産除去債務	41,067	41,463
その他	58,795	58,795
固定負債合計	599,667	332,168
負債合計	2,466,046	1,866,403
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,185,548	1,196,638
資本剰余金	1,426,528	1,437,618
利益剰余金	△557,262	△1,246,955
自己株式	△149,968	△149,968
株主資本合計	1,904,845	1,237,333
新株予約権	77,324	90,524
非支配株主持分	231,642	177,179
純資産合計	2,213,812	1,505,037
負債純資産合計	4,679,859	3,371,441

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)
売上高	5,632,064	4,888,881
売上原価	3,804,985	3,688,112
売上総利益	1,827,078	1,200,768
販売費及び一般管理費	1,502,258	1,519,923
営業利益又は営業損失(△)	324,820	△319,155
営業外収益		
受取利息	143	225
受取分配金	—	10,777
還付加算金	793	—
その他	597	232
営業外収益合計	1,534	11,235
営業外費用		
支払利息	10,817	11,159
社債利息	3,901	2,410
その他	3,950	514
営業外費用合計	18,669	14,084
経常利益又は経常損失(△)	307,684	△322,003
特別損失		
減損損失	—	359,176
特別損失合計	—	359,176
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	307,684	△681,180
法人税、住民税及び事業税	44,753	30,322
法人税等調整額	146,772	32,653
法人税等合計	191,526	62,975
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,158	△744,156
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△11,715	△54,463
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	127,873	△689,692

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	116,158	△744,156
その他の包括利益		
その他の包括利益合計	-	-
四半期包括利益	116,158	△744,156
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	127,873	△689,692
非支配株主に係る四半期包括利益	△11,715	△54,463

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コンテンツ サービス	広告メディア サービス	計		
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	4,946,894	685,170	5,632,064	-	5,632,064
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	-	12,886	12,886	△12,886	-
計	4,946,894	698,056	5,644,950	△12,886	5,632,064
セグメント利益又は損 失(△)	632,217	△296,737	335,479	△10,659	324,820

(注) 1. セグメント利益の調整額△10,659千円はセグメント間の内部取引によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	コンテンツ サービス	広告メディア サービス	計		
売上高					
(1)外部顧客に対する 売上高	4,358,715	530,166	4,888,881	-	4,888,881
(2)セグメント間の内 部売上高又は振替 高	-	148,424	148,424	△148,424	-
計	4,358,715	678,590	5,037,305	△148,424	4,888,881
セグメント利益又は損 失(△)	98,557	△384,606	△286,048	△33,106	△319,155

(注) 1. セグメント利益の調整額△33,106千円はセグメント間の内部取引によるものであります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。